ソラや

内田百閒

文藝春秋新社

ノラや

内田百閒

文藝春秋新社

著者略歷

本名榮造　明治二十二年儒前岡山ニ生ル
東京帝國大學文科大學文學部卒　陸軍教
授陸軍士官學校附　陸軍砲工學校附　海
軍機關學校囑託教官　法政大學教授歷任
後ニ日本郵船會社囑託　著書ハ本書卷末
所載著作目錄參照

ノラや

昭和三十二年十二月　十日　初版
昭和三十三年　五月三十一日　三　版

定價　二八〇圓

著者　内田百閒
發行者　車谷弘
印刷者　山田一雄
發行所　株式會社　文藝春秋新社
東京都中央區銀座西八ノ四
振替口座東京七八七四三番
印刷　精興社
製本　中島製本

（萬一落丁又は亂丁がありましたら、本社又はお買求めの書店でお取換えします）

© 1957 Hyakken Uchida　Printed in Japan

ノラや　目次

猫　夏目漱石筆　鉛筆畫

ノラや　九

ノラやノラや　六七

ノラに降る村しぐれ　九九

ノラ來簡集前書……一二九

ノラ來簡集目次……一三〇

ノラ來簡集……一三一

朝雨　一七七
門の夕闇　一八三
田樂の涙　一八九
草平さんの幽靈　一九四
一本七勺　一九七
列車食堂の爲に辯ず　二〇五
放送初舞臺　二一一

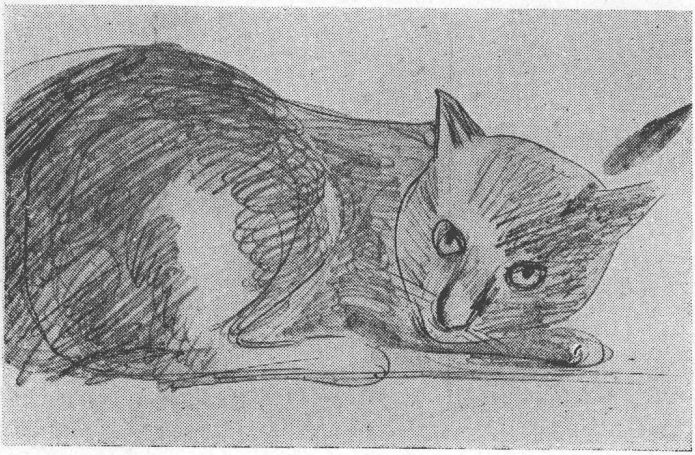
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

鯉の子　二二六
第七回摩阿陀會　二三二
御慶六年　二三五
八代紀行　二三九
千丁の柳　二四四
彼ハ猫デアル〔再錄〕　二七一
著作目錄……二八一
裝釘意匠者一覽……二八七

ノ

ラ

や



夏目漱石筆 鉛筆畫　明治末年頃ノ寫生

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ノラや

一

猫のノラがお勝手の廊下の板敷と茶の間の境目に來て坐つてゐる。

外は夜更けのしぐれが大雨になり、トタン屋根だから軒を叩く雨の音が騷騷しい。

お膳の上は食べ殘したお皿がまだその儘に散らかり、座の廻りはお酒や麥酒の罎で、うつかり起てば躓きさうである。

しかしもう箸をおいたので、後ろの柱に靠れて一服してゐる。

その煙の尾を見てノラは坐りなほした。つまり兩手にあたる前脚を突いた位置を變へたのである。

ノラは決してお膳には來ない。そのお行儀を心得てゐる。

猫は煙を氣にする樣である。消えて行く煙の行方をノラは一心に見つめてゐる。彼がもつと子供の時は、家内に抱かれてゐて私の吹かす煙草の煙にちよつかいを出し、兩手を伸ばして煙をつかまへようとした。しかし今はもう一匹前の若猫だからそんな幼稚な眞似はしない。ぢつと見つめて、消えるまで見屆ける。

「こら、ノラ、猫の癖して何を思索するか」

「ニャア」と返事をしてこつちを向いた。ノラはこの頃返事をする。尤も、どの猫でも返事をするのかも知れない。私は今まで、子供の時家に猫がゐた事は覺えてゐるが、自分で猫を飼つて見ようと考へた事もなく、猫には何の興味もなかつた。だから猫の習性なぞ何も知らない。ノラと呼べば返事をすると云つても、外の猫にノラと聲を掛ければ矢張り返事をするのかも知れないし、ノラに向かつて人間の名前を呼び掛けても同じくニャアと云ふのかも知れない。さう云ふ實驗をやつて見た事がないので、私にはどうなのだか解らない。

ノラはそこの間境に暫らく坐つてゐた後、どう云ふきつかけか解らないが、腰を上げて伸びをして、それから人の顏を見ながら口一ぱいの大きな欠伸をして向うへ行つてしまつた。多分風呂場へ這入つて、湯槽の蓋の上にいつもノラの爲に敷いてある座布團に上がつて寢たのだらう。

この稿は「彼ハ猫デアル」(單行筑摩書房版「いささ村竹」收錄)の續きである。一昨年の初秋、

今は取りこはした低い物置小屋の屋根から降りて來た野良猫の子が、私の家で育つて大きくなつたので、私も家内も特に猫が好きだから飼つたと云ふわけではない。自然に私の家の猫になつたので、その經緯は右の「彼ハ猫デアル」に詳しい。その稿にもことわつてある通り、ノラと云ふ名前はイプセンの「人形の家」の「ノラ」から取つたのではない。それなら女であるが、うちのノラは雄で野良猫の子だからノラと云ふ。だからノラと云ふその名は世界文學史に丸で關係はない。

うちのノラが降臨した高千穗ノ峰は物置小屋である。そのもとの低い物置を去年の秋に取りこはして、後に新らしい物置が建つた。今度のは大分立派で、しつかりしてゐて、屋根も高い。屋根はペンキ塗りのトタンである。ノラは早速新物置の屋根に上がり、塗り立てのペンキの上を歩いて歸つて來て家内に抱かさつたから、家内の上つ張りはペンキだらけになつた。ノラの足の裏をアルコールやベンジンで拭いたり、上つ張りの始末をしたり、大騷ぎをしてゐた。

私の家には小鳥がゐる。目白二羽と赤ひげで、晝間は飼桶から出して座敷に置く。猫に小鳥は目の毒に違ひない。ノラが子供の時は、廊下から座敷の小鳥籠の方をぢつと見据ゑて、腰を揉む樣な恰好をした事がある。飛び掛からうとしたのである。叱つて頭をたたいて止めさしたが、さう云ふ事が習慣になつて、ノラは決して疊敷きの上には這入つて來なかつた。うつかり這入つて來ようとすると、私が睨めば止めて、そこへ坐り込んでしまふ。猫を睨むにも氣合ひがある。學

校教師の時、學生を睨んだ目つきでは猫には通用しない。

昔、四谷の大横町の小鳥屋に猫がゐて、目白や頰白の籠を置いた間で晝寢をしてゐたのを見た事がある。猫でもしつけをして馴らせば、小鳥に掛からぬ樣になる實例を私は見て知つてゐる。

ノラが大分大きくなつて、私と家内と二人きりの無人の家にすつかり溶け込み、小さな家族の一員になつた樣である。顏つきや、特に目もとが可愛く、又利口な猫で人の云ふ事をよく聞き分けた。いつも家内の傍にゐるので、家内は可愛がつてしよつちゆう抱いてゐた。私がこつちにゐる時、お勝手で何か云つてゐる樣だから、聲を掛けて、だれか來てゐるのかと聞くと、ノラと話しをしてゐるところだと云ふ。

「いい子だ、いい子だ、ノラちやんは」

少し節をつけてそんな事を云ひながら、お勝手から廊下の方を歩き廻り、間境（まざかひ）の襖を開けて、「はい、今日は」と云ひながら猫の顏を私の方へ向ける。ノラは抱かさつた儘、家内の前掛けの上で、先の少し曲がつた尻尾を揉む樣にしたり、尻尾全體で前掛けをぽんぽん叩いたりする。

生まれてまだ一年經たない去年の夏、庭へ出るとよそから來た猫と張り合つて、喧嘩する樣な聲をし出した。しかし大體どの猫にもかなはない樣で、さう云ふ聲が聞こえると、いつも家内がやり掛けた事を投げ出して加勢に馳けつけた。ノラは私の家の庭から外へ出た事がないらしく、いつもそこいらの門の脇か屏の上で睨み合つてゐるのだから、加勢も役に立つわけである。

私の家には門が二つある。往來に面した門から兩隣りの間の細長い路地を這入つた所にもう一つ內門がある。その門と門との間をつなぐ混凝土（コンクリート）の通路の半分迄もノラは出て行かない。往來の門まで出て、外を見た事は一度もないだらう。たまに家內が郵便を入れに行つたり近所の用達しに出たりすると、ノラは內門の傍までついて行つて、そこから先へは行かない。歸つて來ると、そこにちやんと坐つて待つてゐたと云ふので、家內は抱き上げて頰ずりしながらお勝手に這入つて來る。

庭から外へ出なくても、庭の屏を隔てた向うの靴屋の藤猫が子供の時からノラと仲好しでいつも遊びに來るから、友達には不自由しなかつたのだらう。その藤猫はノラと前後した頃に生まれた雄で、雄同士でも氣が合ふと云ふ相手があるのかも知れない。いつも二匹揃つて、鼻を突き合はせる樣にして日向ぼつこしたり、庭石の上にいつまでも竝んでしやがんでゐたりする。ノラのお友達だからと云ふので、家內がお皿に牛乳をついで持つて行つてやると、靴屋の藤猫がうまさうに舐めるのを、ノラは傍から眺めてゐて、妨げもしなければ、自分が飲まうともしない。

しかし靴屋の藤猫でない外の猫が庭へ來るとノラは怒るらしい。追つ拂はうとするのだらうと思ふけれど、その實力はないので仰山な聲をするだけで結局は逃げて歸る。

よそから來る猫の中に、一匹すごく强いのがゐて、玉猫でこはい顏をしてゐる。ノラはその猫には丸で齒が立たないらしい。一聲二聲張り合つてゐる內に、いつでもギヤツと云はされて逃げ

て來る。

夏の暑い日の晝間、ノラは茶の間の間境の廊下の隅で、壁にもたれる樣にして晝寢をしてゐた。突然猫の悲鳴が聞こえて、どたばた大變な物音がするから、驚いて茶の間から私が飛び出して行くと、いつの間にかその玉猫の惡い奴が、暑いので開け放しにしてあつたお勝手の戸口から家の中へ這入り込み、いい心持ちに晝寢をしてゐるノラの多分腰のあたりへ嚙みついたのだらう。ギャツと鳴いて跳ね起きたノラを追つ掛け、廊下の突き當りの洗面所の下で團子の樣になつて揉み合つた末、ノラが戸が開いてゐた風呂場へ逃げ込むのをまだ追つて二匹共外へ出てしまつた。

中の間にゐた家内が飛んで來て、ノラの加勢に馳けつけたが、もうそこいらにゐなかつた。廊下や風呂場の簀子に、ノラが引つ掛けたと思はれる苦しまぎれの刹那小便の痕が點點と散らかつてゐる。無心に寢てゐるノラをいぢめた惡い奴に非常に腹を立てたが、家内は一層憤慨して、いつだつてノラをいぢめてゐる擧げ句にこんな事までした。もう勘辨しない。これからは見つけ次第、引つぱたいて、突つついて、追つ拂つてやると云つた。

ノラは惡い奴の追跡から逃げのがれて、ぢきに歸つて來た。家内はすぐに抱き上げ、頰ずりしていたはりながら、怪我はしなかつたかと方方調べてゐる。抱いたノラの胸がこんなにどきどきしてゐると云つて可哀想がつた。

家内は惡い奴の聲を聞き覺えてゐる。ノラがうちにゐる時でも惡い奴がよその猫と喧嘩する聲

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com